

寄付を通じて卒業生を応援 卒業後の活躍を知る
「心」を育て、「オール成蹊の絆」を深める

学校法人成蹊学園

【「心」を育て「寄付」と「成蹊会」】

成蹊学園では2021年から返礼品付き寄付「心」のふるさと「寄付」の構想が始まり、翌2022年から募集を開始しました。寄付金額に応じて返礼品が贈呈され、返礼品は100品目以上に及んでいます。日本全国にある卒業生が経営に携わる企業(以下、卒業生企業)に加え、海外の卒業生企業の取扱商品も返礼品になっています。一度に最大20種類まで返礼品を選択することができ、同じ卒業生企業の返礼品を複数選択することも、異なる卒業生企業の返礼品を組み合わせることも可能であるなど、組合せも自由となっています。「心」のふるさと「寄付」では、学校と卒業生の両方を応援できるという点を特徴として打ち出しています。

「心」のふるさと「寄付」は、卒業生企業の認知度アップも目指しています。また、本募金事業を通して卒業生の活躍を他の卒業生も知ることとなり、「オール成蹊の絆」が深まることにもつながっています。この絆によって卒業生が母校に誇りを持ち、卒業生からの寄付が促進されるきっかけになっています。

募金のリーフレットに返礼品を提供する卒業生の顔写真を掲載することで、

寄付者が卒業生や卒業生企業に対して親しみをもちやすくなるよう工夫がされています。

また、2022年からメールマガジン「心」のふるさと通信の不定期配信を開始し、「心」のふるさと「寄付」に参加する企業と返礼品が、卒業生の顔写真・メッセージ付きで紹介されています。

「心」のふるさと「寄付」を開始するにあたっては、返礼品の提供が可能な卒業生を、卒業生団体「成蹊会」から紹介してもらおうなど、同団体と密に連携しています。基本的に同団体が、卒業生に対し「心」のふるさと「寄付」の参加の呼びかけを行っており、同団体と卒業生企業とのつながりの強さが「心」のふるさと「寄付」を支えています。

「心」のふるさと「寄付」では、所得税の寄付金控除を受けることも可能であり、税額控除か所得控除のいずれかを確定申告の際に選択することができます。

【「成蹊教育応援団」について】

「宇(いえ)は大なり」成蹊教育応援団(以下、成蹊教育応援団)は、成蹊学園への支援の輪を広げることを目的とした寄付募集の枠組みです。個人が成蹊教育応援団を通じて寄付すると会員になることができ、累計寄付金額(

と)に決められた会員種別に応じて様々な会員特典が付与されます。10万円未満は「櫻の会」、10万円以上は「蹊(こみち)の会」、50万円以上は「桃李の会」となっています。このうち、「桃李の会」会員は、累計300万円に達すると、「桃李名誉会員」という名誉称号が付与されます。

- ①「箱根寮」の特典として①「箱根寮」(研修・宿泊施設)の先行予約や宿泊料優待
 - ②大学情報図書館での図書の閲覧や貸出
 - ③学園史料館2階「櫻ラウンジ」の利用の3種類が用意されています。
- ①「箱根寮」の先行予約

「蹊の会」になると利用可能です。さらに「桃李の会」になると宿泊料優待も受けられます。「箱根寮」の歴史は1943年、当時の岩崎小弥太理事長より6万3千坪の土地の寄贈を受けたことから始まりました。1992年に新築され、近年は園路整備などに力を注ぎ、多くの学園関係者から愛される存在となっています。研修室やバーベキューハウスなどを併設していて、卒業生にも幅広く利用されています。

②大学情報図書館での閲覧や貸出

「蹊の会」になると閲覧が可能になります。さらに「桃李の会」になると図書の貸出も利用可能になります。

情報図書館は「明るく、美しく、暖かい建物」をコンセプトに、2006年に完成しました。蔵書数は100万冊以上と充実しています。卒業生の坂茂(ぼ

んしげる)氏が設計した近未来的なデザインであり、中央付近にあるプラネットが特徴的な景観となっており、ゼミのディスカッションなどに利用されています。大学ホームページには、情報図書館のバーチャルツアーの動画があり、プラネットの中の様子も見ることができます。

③学園史料館「櫻ラウンジ」の利用
「桃李の会」のみ利用可能となっています。「櫻ラウンジ」ではキャンパス内の四季折々の風景を楽しむことができます。

寄付者のロイヤリティを高めるため、法人では特典を少しずつ増やし、現在に至っています。こうした取組みにより、幅広い層からの継続的な寄付につながっています。



蹊の会
会員カード



桃李の会
会員カード

【その他の募金活動】

法人では、上記以外にも複数の募金活動を展開しています。

(1) 通常寄付

使途を全10パターン

- ① 大学教育振興…国際交流機会の拡充
 - ② 大学教育振興…教育・学修環境の整備・充実
 - ③ 大学教育振興…奨学金の充実
 - ④ 大学教育振興…指定なし(大学に一人)
 - ⑤ 中学・高等学校教育振興
 - ⑥ 小学校教育振興
 - ⑦ 成蹊教育振興
 - ⑧ 学園環境整備
 - ⑨ 課外活動団体への支援
 - ⑩ その他の使途の特定
- から選択することができ、法人では主に個人から多くの寄付を集めています。なお、インターネットから申し込む場合、「毎年」「年2回」「毎月」の3パターンの継続寄付を選択することができます。

(2) リサイクル募金

法人への寄付を希望する方で、不要品(本、CD、DVD、ブランド品など)がある場合は、その不要品の換金額を寄付することができます。法人が委託する業者が、不用品の集荷、査定、換金まで担っています。寄付金は、奨学金運営費や課外活動費などの学生支援として活用されます。

(3) 遺贈・相続財産からの寄付

法人では寄付者の遺言により寄付を

受け付けており、次世代の育成支援教育を通じて社会に貢献したいという寄付者の想いに応えています。遺贈の相談があった場合、寄付者の便宜を図るため、提携先の信託銀行を紹介します。なお、遺贈・相続財産からの寄付は、原則的に換金後の寄付という形で受け付けています。

また、一度に1万円以上寄付すると特典として『成蹊学園百年史』が進呈されます。2020年からは、年度中(4月～翌年3月)に累計1万円以上寄付した場合の特典として『成蹊オリジナルナノブロック』の進呈を開始しました。「成蹊オリジナルナノブロック」では、本館とその正面の櫓並木をモチーフにした模型を作ることができます。卒業生にとっては母校を思い出すきっかけにもなるため人気が高く、この特典の進呈を開始したタイミングで寄付金額・件数ともに前年度の約2倍に増加しました。

さらに、法人では寄付履歴がある寄付者に対し、2021年から冬季にDMを送付し、繰り返し寄付を呼び掛けています。高額寄付者の銘板も設置していて、寄付に対するモチベーションの一つにもなっています。



寄付のページ

【「成蹊けやき募金」について】

法人では2024年に吉祥寺移転100周年を迎えることから、2023年度に特別企画「成蹊けやき募金」を開始しました。1924年の吉祥寺移転時、キャンパスに櫓が植えられ、法人のシンボリック存在となっています。この櫓をはじめとするキャンパス内の緑を次の世代に遺すため、樹木の維持・管理費としてこの募金事業は開始されました。なお、一定額以上寄付すると、寄付者の芳名がプレートに掲載され、2040年まで櫓の木に設置されます。プレートに名前が残ることで、母校に対して貢献できたことを実感する寄付者もみられ、寄付が集まり始めています。この「成蹊けやき募金」は、前述

の寄付使途のうち「学園環境整備」を選択することで、寄付することができます。

【利便性の向上を目指して】

成蹊学園は、寄付者が手軽に寄付できることも大切であると考えています。2022年12月に法人ホームページの寄付募集サイトを全面的にリニューアルし、コンビニ決済、Amazon Payによる寄付や継続寄付の仕組みが導入されました。このリニューアルにより、「心のふるさと寄付」も専用ページから簡単に申し込みが可能になり、寄付者の利便性が向上しました。